

安全対策部

部 長 山 田 隆

安全対策部

○事業委員会

委員長	片倉	善文	群馬県
副委員長	影山	広美	北海道
委員	川内	慎吾	新潟県
委員	小瀬	強	岐阜県
委員	須藤	光春	青森県

○技術検定委員会

委員長	秋元	洋一	北海道
副委員長	鈴木	恵太	山形県
委員	織田	久	東京都
委員	富樫	泰一	茨城県
委員	米田	幸雄	兵庫県
委員	田村	一司	長野県

■全国安全対策委員長会議（議事録_資料 01）

○役員会議

日時：2013 年 11 月 2 日（土） 10：00～12：00

場所：岸記念体育会館（101・102・103 会議室）

役員：山田隆，片倉善文，秋元洋一，織田久，富樫 泰一

○委員長会議

日時：2013 年 11 月 2 日（土） 13：00～17：00

場所：岸記念体育会館（101・102・103 会議室）

役員：山田隆，片倉善文，秋元洋一，織田久，富樫 泰一

オブザーバー：小林英記，一戸繁輝，保坂淳司

司会：織田久

1. 出席者

（公財）全日本スキー連盟教育本部安全対策部

部長：山田隆，事業委員会委員長：片倉善文，技術検定委員会委員長：秋元洋一

委員：織田久，富樫泰一

スキー安全会：小林英記

日本スキーパトロール協議会（JSPA）：会長・一戸繁輝，事務局長・保坂淳司

加盟団体安全対策委員長または代理人

2. 開会宣言（片倉善文）

3. 安全対策部長報告（山田隆）

2014FIPS 報告

4. 安全対策部事業委員会委員長報告（片倉善文）

2013 年度安全対策部事業報告

5. 安全対策部技術検定委員会委員長報告（秋元洋一）

安全対策部規程改正等について

6. 2014 事業計画（織田久）

（1）スキーパトロール中央研修会・スキーパトロール技術員研修会

（2）公認スキーパトロール検定会

（3）公認スキーパトロール研修会

（4）第 29 回スキーパトロール技術競技大会

7. 加盟団体報告（秋元洋一）

8. スキー安全会報告（小林英記）

9. 日本スキーパトロール協議会報告（一戸繁輝，保坂淳司）
10. その他
11. 閉会宣言（秋元洋一）

■パトロール中央研修会

【会期】 2013 年 11 月 22(金) ～ 24 日(日)

【集合】 11 月 22 日(金) 16 : 00

【会場】 長野県 熊の湯スキー場

【本部宿舎】 熊の湯ホテル

〒381-0401 長野県下高井郡山ノ内町平穏 7148

TEL 0269-34-2311 FAX 0269-34-3010

【責任者】 山田 隆

【参加者】 片倉 善文、秋元 洋一、影山 広美、鈴木 恵太、川内 慎吾、
小瀬 強、須藤 光春、織田 久、田村 一司、富樫 泰一、
米田 幸雄

【日程】

11 月 22 日	16:00～17:00	安全対策部打ち合わせ
	17:00～17:30	開会式
	17:30～18:00	全体会議Ⅰ
	19:00～21:30	理論研修Ⅰ・Ⅱ
11 月 23 日	09:00～10:00	実技研修Ⅰ
	10:00～12:00	実技研修Ⅱ
	13:00～15:00	実技研修Ⅲ
	15:10～16:10	安全対策部会議
	16:20～18:00	理論研修Ⅲ
	19:00～21:00	ブロック会議
11 月 24 日	09:00～10:00	全体会議
	10:00～10:30	閉会式

【所見】

研修会初日は、安全対策部打ち合わせの後、スキー中央研修会の開会式・全体会議・理論研修Ⅰ・Ⅱを受け、新スキー技術等について理解を深めた。翌日は、スキー中央研修会の全体デモを観察し、新スキー技術・指導・検定等の実演を観察し理解を深めることが出来た。その後安全対策部の基礎種目・搬送種目の確認を行い、養成講習・検定・研修会に備え、技術競技大会要項の詳細について定めた。その後、安全対策部各事業内容の確認と役割分担を決定し、事業実施体制について確認した。さらに、スキー中央研修会の理論研修Ⅲを受け、オーストリーのスキー指導方法等について理解を深めることが出来た。夜は、各ブロックの事業計画について打ち合わせを行った。

■パトロール技術員研修会

○北海道ブロック

【会期】 2013 年 11 月 29 日(金) ～ 12 月 1 日(日)

【派遣期間】 2013 年 11 月 29 日 集合 18 : 00 ～ 12 月 1 日

【会場】 北海道会場：札幌国際スキー場

【本部宿舎】 定山溪万世閣ホテルミリオーネ

〒061-2302 北海道札幌市南区定山溪温泉東 3 丁目 TEL 011-598-3500

【責任者】 登山 一成

【主任講師】 秋元 洋一

【講師】 影山 広美

【参加者】 北海道ブロックパトロール技術員 男子 14 名、女子 2 名 合計 16 名

【日程及び概要】

11月28日	20:00～21:00	役員打合わせ
11月29日	14:15～15:00	開会式
	15:10～16:20	教育本部会議Ⅰ（SAJ報告・SAH報告）
	16:30～17:20	理論研修Ⅰ（スキー検定種目）
	20:00～22:00	安全対策部理論研修Ⅰ（パトロール研修テーマ解説）
11月30日	09:00～14:00	雪上実技研修Ⅰ（スキー技術）
	15:00～17:00	理論研修Ⅱ（スキー研修テーマ解説）
	17:00～19:00	安全対策部理論研修Ⅱ（パトロール検定会種目）
12月1日	09:30～14:00	雪上実技研修Ⅱ（スキーパトロール技術）
	14:30～14:50	閉会式

【所見】

シーズン初めにかかわらず、降雪に恵まれ、さらにスキー場関係者の尽力により、絶好のグレンデコンディションの中、しっかりとした内容で、予定通りに研修することができた。雪上においては、今シーズンのスキーパトロール研修会テーマの理解と確認、さらに昨シーズン改訂した検定種目についての交流と確認を図った。また、室内においては、養成講習等における、指導の際に、ポイントとなる部分を確認し、さらに効果的な指導法についての相互交流を図った。本研修会を通して、技術の確認と意識の高揚と共有化を図ることができたと評価することができた。

○東北ブロック

【会期】	2013年12月6日（金）～12月8日（日）
【派遣期間】	2013年12月6日 集合 18:00 ～ 12月8日
【会場】	青森県・ナクア白山スキーリゾート
【本部宿舎】	〒038-2712 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字長平町字西岩木山 75 0173-72-1011
【責任者】	五十嵐 憲雄
【主任講師】	鈴木 恵太
【講師】	須藤 光春
【参加者】	東北ブロックパトロール技術員 男子9名、女子1名 合計10名
【日程及び概要】	

12月6日	13:00～17:00	理論研修
12月7日	09:00～12:00	実技研修1
	13:00～15:00	実技研修2
	15:00～17:00	実技研修3（三角巾・ロープ）
12月8日	09:00～12:00	実技研修4
	13:00～	閉会式・解散

【所見】

二日目まで雪が少なく、実技研修は、スキーを使わないで行う。検定種目の確認や研修テーマの理解を目的とした。ロープ・三角巾の確認も行い、中央研修会からの打ち合わせ通りを執り行う。真剣な態度で臨めた研修会になりました。

○北関東、南関東、甲信越、東海北陸、学連ブロック

【会期】	2013年11月29日～12月1日
【派遣期間】	2013年11月29日 集合 14:00～12月1日
【会場】	群馬県 鹿沢スノーエリア
【本部宿舎】	休暇村 鹿沢高原 〒377-1695 群馬県吾妻郡嬭恋村鹿沢温泉 TEL 0279-98-0511
【責任者】	山田 隆
【主任講師】	片倉 善文
【講師】	田村 一司、川内 慎吾、富樫 泰一

- 【参加者】
- ・北関東(3)：新井 和夫，森山 直温
 - ・南関東(6)：大信田 雅伸，保坂 淳司，班目 敦子
上杉 一哲，山川 正一，和田 均
 - ・甲信越(5)：太田 廣，大月 照治，廣瀬 昭彦，石田 英之，辺見 秀利
 - ・東海北陸(5)：干潟 守，西部 廣明，中島 浩二，細川 哲明

【日程】

11月29日	14:00	役員集合
	16:00～18:00	開会式・理論研修1
11月30日	07:00～07:30	朝の集い
	09:00～11:00	実技研修1
	12:30～14:30	実技研修2
	15:00～17:00	実技研修3
12月1日	19:00～21:00	実技研修4
	07:00～07:30	朝の集い
	09:00～12:00	理論研修2
	12:00～12:30	閉会式

【所見】

理論研修内容：安全対策部関係規程制定・改正について，第29回スキーパトロール技術競技大会要項について，2014研修会テーマについて，2012/13スキー場傷害報告について，スノースポーツ安全基準改定について，2014安全対策部事業の役割分担と業務内容確認を行った。

実技研修内容：スキーパトロール養成・検定・研修内容について，基礎スキー技術・搬送技術・ロープ・三角巾包帯法技術の確認を行った。

○西日本ブロック

- 【会期】 2013年12月7日 ～ 12月8日
- 【派遣期間】 2013年12月6日 集合 12:00 ～ 12月8日
- 【会場】 兵庫県 奥神鍋スキー場
- 【本部宿舎】 ニューみちや 〒669-5377 兵庫県豊岡市日高町山田 TEL 0796-45-0605
- 【責任者】 矢船 保夫
- 【主任講師】 米田 幸雄
- 【総務担当】 石原 元治

【日程】

12月26日	12:00	役員集合
	13:00～16:00	開会式・理論研修1
12月7日	09:00～09:30	開会式
	09:30～12:00	実技研修1
	13:30～15:00	実技研修2
	15:30～17:30	理論研修1
12月1日	19:00～21:00	理論研修2
	07:00～07:30	朝の集い
	09:00～12:00	実技研修3
	13:00～14:00	実技研修4
	14:00～14:30	閉会式

【所見】

理論研修：安全対策部関係規定制定・改正について，2014 年研修会テーマについて，第 29 回スキーパトロール技術競技大会要項について，スノースポーツ安全基準改訂について，2014 年安全対策部事業の役割分担の確認を行なった。

実技研修：スキーパトロール養成・検定・研修，基礎スキー技術・搬送技術・ロープ・三角巾包帯法の確認を行った。

■公認スキーパトロール検定会

○第1会場

【会期】	2014年2月28日(金)～3月2日(日)		
【会場】	北海道・ルスツリゾート		
【本部宿舎】	ルスツリゾートホテル		
【責任者】	登山 一成		
【主任検定員】	秋元 洋一		
【現地総務】	池田 卯一郎		
【検定員】	影山広美	後藤博昭	斉藤 渡
	岡部秀文	山村 誠	奥島玲子
【参加状況】	申込者名 26, 受検者 24 名, 合格者 23 名, 不合格者 1 名, 合格率 92%		
【日程】			
2月28日	17:00	役員集合(本部宿舎)・検定委員会議	
3月1日	08:00～10:00	受検者受付(本部宿舎)	
	10:00～10:30	開会式	
	10:30～12:00	学科オリエンテーション1	
	13:00～14:00	学科オリエンテーション2	
	14:00～15:00	学科オリエンテーション3	
	16:00～17:30	理論テスト	
3月2日	09:00～12:00	雪上搬送種目テスト	
	13:00～15:00	雪上基礎種目テスト	
	15:00～16:00	総合救出訓練	
3月3日	09:00～11:00	救急法・ロープテスト	
	13:00～14:00	閉会式・合格発表・諸手続き	

【所見】

会期中は天候に恵まれ、理論検定・実技検定ともに予定通りに終了した。養成講習会等での成果と、絶好のバーンコンディションとがあいまって、雪上種目においては、良好な成績を収めることができた。また、室内種目においても正確迅速なロープワークや包帯法ができていた。

検定会を通しての今後への課題としては、より資質の高いパトロールの養成のために、パトロールとして必要な実技を明確にし、検定にあたっていきたい。

検定会の実施にあたり、ご協力していただいた北海道スキー連盟及びルスツリゾートスキー場ほか、関係各位のご協力によりスムーズな運営ができたことを感謝申し上げたい。

受検者の本検定会受検に向けての準備と意欲には、大変感心させられた。資格取得だけではなく、今後スキーパトロールとしての自覚をもち、各地において、スノースポーツの安全と普及のために大いに活躍してくれることを期待していきたい。

○第2会場

【会期】	2014年2月28(金)～3月2日(日)		
【会場】	岐阜県・ほおのき平スキー場		
【本部宿舎】	平湯プリンスホテル		
	〒506-1433 岐阜県高山市奥飛騨温泉郷平湯 128-6		
	TEL 0578-89-2323 FAX 0578-89-3130		
【責任者】	山田 隆		
【主任検定員】	片倉 善文		
【現地総務】	富樫 泰一		
【検定員】	小瀬 強, 田村 一司, 太田 廣, 大月 照治		
	西部 廣明, 細川 哲明, 中島 浩二		
【参加状況】	申込者 42 名, 受検者 37 名, 合格者 35 名, 不合格者 2 名, 合格率 83.3%		
【日程】			

2月28日	17:00	役員集合（本部宿舎）・検定委員会議
3月1日	09:00～10:00	受検者受付（本部宿舎）
	10:00～10:30	開会式
	10:30～12:00	学科オリエンテーション1
	13:00～14:00	学科オリエンテーション2
	14:00～15:00	学科オリエンテーション3
	16:00～17:30	理論テスト
3月2日	06:30～07:00	朝の集い
	09:00～13:00	雪上搬送種目・基礎種目テスト
	14:30～16:30	救急法・ロープテスト
3月3日	06:30～07:00	朝の集い
	08:30～09:30	閉会式・合格発表・諸手続き
		※ 天候不順による道路通行止めの恐れがあったため、 予定を繰り上げて解散とした。

【所見】

学科試験は、全員合格し日頃の勉強の成果がみられた。雪上検定当日は朝から雨が降り続き、受検生の体調等考慮し、午前中に搬送種目テスト、基礎種目テストを行い、午後から救急法テスト・ロープテストを実施した。雨天の中、地元パトロール隊の全面的な支援により、遅延なく検定を終えることができた。検定会開催にあたり、岐阜県スキー連盟安全対策部、ほおのき平スキー場パトロール隊、平湯プリンスホテルに感謝して報告とします。

■公認スキーパトロール研修会

○第1会場

【会期】 2014年1月24日（金）～26日（日） 2泊3日
【会場】 北海道・ルスツリゾート
【責任者】 登山 一成
【主任講師】 影山 広美
【現地総務】 奥島 玲子
【講師】 宇山 潔, 松本 年弘, 高橋 渉
【修了者】 男子25名, 女子4名, 合計29名
【日程】

研修会場となったルスツリゾート関係者および地元スキー連盟の方々の協力を得て、予定通り研修日程を終了した。研修では今シーズンの4つのテーマに沿って行い、それぞれの特質に応じた内容に絞って実施した。特に、室内研修では整形外科に協力をいただき、パトロールとして知るべき膝前十字靭帯損傷とその予防法について、雪上研修では2人操作によるアキヤボート搬送と1人操作によるロープボート搬送について研修を行いスムーズで動揺の少ない斜行及び真下搬送要領のスキルアップを図った。

【所見】

先の東日本大震災の影響からか、研修会参加者は例年の半数以下となり、小規模の開催となったが、グループ研修やグループ発表等を行い、全員参加型の研修を重視したことで、終始和やかな研修会となった。また、毎年実施しているアンケート調査の結果を反映した研修内容は、研修生から好評であることを確認した。

○第2会場

【会期】 2014年3月24日（月）～26日（水） 2泊3日
【会場】 福島県・南郷スキー場
【責任者】 五十嵐 憲雄
【主任講師】 須藤 光春
【現地総務】 馬場 相任
【講師】 高畑 伸也, 遠田 武, 太田 和明
【修了者】 男子69名, 女子8名, 合計77名
【日程】

3月24日	10:00	役員集合
	10:00～11:00	役員会
	12:00	参加者受付
	13:00～13:30	開会式
	13:30～17:30	実技研修1（バックボード・ロープ・三角巾）
	19:00～21:00	理論研修1
3月25日	07:00	朝の集い
	09:00～12:00	実技研修2（テーマ プルークボーゲン）
	13:00～15:00	実技研修3
	15:00～16:00	班別テーマ発表（応用ボートタイムトライアル）
	16:00～18:30	理論研修2（医大ドクター講義）
	18:30～21:30	情報交換会
3月26日	07:00	朝の集い
	09:00～12:00	実技研修4（ツアー&競技大会観戦）
	12:00	閉会式・解散

【所見】

今回は、シーズン終盤にもかかわらず、豊富な積雪および天候にも恵まれ、室内および雪上実技ともに、無事終了することができた。

雪上研修においては、パトロールの研修テーマである「スキーはずらすことから始まる」を中心として、応急ボート作成による班ごとの滑走などを研修し、チームワークの大切さを再認識することができた。

室内研修においては、頸椎損傷を想定したバックボードの使用方法や、基本に立ち返った三角巾およびロープの講義などを行い、内容の濃い非常に有意義な研修であった。

最後に、多大なるご協力をしていただいた南郷スキー場、福島県スキー連盟関係各位の皆様に感謝申し上げます。

○第3会場

【会期】 2014年2月3日（月）～5日（水） 2泊3日

【会場】 新潟県・胎内スキー場

【責任者】 山田 隆

【主任講師】 川内 慎吾

【現地総務】 織田 久

【講師】 石田 英之、辺見 秀利

【修了者】 男子15名、女子4名、合計19名

【日程】

2月3日	10:00	役員集合
	10:00～11:00	役員会
	12:00	参加者受付
	13:00～13:30	開会式
	13:30～15:30	実技研修1（救急法、ロープワーク）
	15:30～17:30	理論研修1
2月4日	06:30	朝の集い
	08:30～10:30	実技研修2（合同救助訓練 防災ヘリ）
	10:30～11:30	実技研修3（ビーコン・プローブによる雪崩救助訓練）
	13:30～16:30	実技研修3（スキー・アキヤボート）
	17:00～18:00	理論研修2
2月5日	06:30	朝の集い
	09:00～09:30	実技研修4（雪上車両安全講習）5
	09:30～10:30	理論研修3
	10:30	閉会式・解散

【所見】

役員会に於いて、会期中のプログラム、日程と職務分担の確認を行った。

室内研修では、救急法・ロープワーク・規程改正の確認、雪上研修では検定種目の改訂に伴う確認、雪崩救助訓練、雪上車の危険事故防止の実習を行った。また、新潟県防災ヘリとの合同救助訓練を行った。

室内研修・雪上研修共、スキー場関係者のご理解とご協力によって中身の濃い研修会ができたことに感謝し報告と致します。

○第4会場

【会期】 2014年3月7日（金）～9日（日） 2泊3日

【会場】 兵庫県・ハチ高原スキー場

【責任者】 矢船 保夫

【主任講師】 米田 幸雄

【現地総務】 青木政明

【講師】 干潟 守、伊澤正純、高 正嗣

【修了者】 男子54名、女子10名、合計64名

【日程】

3月7日	10:00	役員集合
	10:00～11:00	役員会

3月8日	12:00	参加者受付
	13:00～13:30	開会式
	13:30～17:30	実技研修1（救急法）
	19:00～21:00	理論研修1
	07:00	朝の集い
3月10日	09:00～12:00	実技研修2（ビーコン・ゾンデによる遭難者救助訓練含む）
	13:00～16:00	実技研修3（アキヤ・ロープボート操法含む）
	16:00～18:00	理論研修2
	18:00～20:30	情報交換会
	07:00	朝の集い
	09:00～12:00	実技研修4
	12:00	閉会式・解散

【所見】

役員会に於いて、会期中のプログラム、日程と職務分担の確認を行った。室内研修では救急法、雪上研修では検定種目が改訂された為、その内容を確認した。また、ビーコン・プローブを使用して埋没者捜索訓練、ロープ・アキヤボート搬送、リフト救助訓練を実施した。室内研修・雪上研修ともにスキー場関係者のご理解とご協力によって有意義な研修ができたことに感謝し報告と致します。

○加盟団体主管スキーパトロール研修会

加盟団体	会期	会場	主任講師	講師	参加者数		
					男	女	計
北海道	2013/11/29 ～12/1	札幌国際 スキー場	影山 広美	山本武志	16	2	18
青森県(理論) (実技)	2013/11/24 2013/12/23	ナクア白神 スキーリゾート	須藤 光春	斉藤 渡	72	8	80
岩手県	2013/12/14 ～15	安比高原	竹田 直彦	高畑 伸也	15	0	15
宮城県	2013/12/14 ～15	みやぎ蔵王 えぼし	上野健夫	奥山光幸	7	1	8
秋田県	2013/12/21 ～22	田沢湖	遠田 武	土井智恵子	37	3	40
山形県	2013/12/13 ～15	蔵王	鈴木 恵太	太田 和明 高橋 伸司	26	0	26
茨城県	2013/12/7 ～8	丸沼高原	富樫 泰一	高瀬 勝則 石川由紀子	6	1	7
群馬県	2014/1/20 ～22	片品高原	森山 直温		25	2	27
東京都	2014/2/22 ～23	白馬五竜	神戸 敏彦	織田 久 大信田雅伸 保坂 淳司 班目 敦子 清水 哲治	14	9	23
神奈川県	2014/1/17 ～19	白馬五竜	上杉 一哲	山川 正一	6	1	7
愛知県	2014/1/24 ～26	ほおのき平	西部 廣明		28	8	36
合計					252	35	287

【所見】

今年度の公認スキーパトロール研修会規程改正により加盟団体主管研修会を、今年度初めて開催した結果、10 加盟団体が、合計 287 名の修了者を得た。SAJ 主管研修会の修了者は 189

名で、加盟団体主管を合わせると 476 名で、昨年度実績と比べると約 200 名増となった。規程改正初年度実績としては、大きな成果を上げたと言える。次年度の目標はさらに 100 名増の 600 名としたい。また、指導者研修会同様、スキーパトロール研修会の加盟団体への委託金（500 円／1 人）予算を認めていただきたい。

■第 29 回スキーパトロール技術競技大会

大会役員	会 長	鈴木 洋一
	副 会 長	吉 田 肇 坂本 祐之輔
	大会委員長	岡山 紘一郎
	大会役員	谷 雅 雄 古川 年正 登山 一成 五十嵐憲雄 増田 千春 山田 隆 矢 舩 保 夫
組織委員会	委 員 長	登山 一成
	副 委 員 長	片 倉 善 文
	委 員	鈴木 恵太 影山 広美
	総 務	富樫 泰一
	地 元 役 員	南郷スキークラブ会長 大桃 仁 会津高原南郷スキー場支配人 酒井 良男 福島県スキー連盟安全対策部長 安田 耕寿
	地 元 協 力	南郷スキークラブ 福島県スキー連盟安全対策部 南郷スキー場

第 29 回スキーパトロール技術競技大会 競技役員

技 術 代 表	片倉 善文	競 技 委 員 長	鈴木 恵太
〈雪上競技〉		〈室内競技〉	
競 技 係 長	影山 広美	競 技 係 長	影山 広美
主 審	米田 幸雄	ロープ競技審判長	米田 幸雄
出 発 審 判	田村 一司	ロープ競技審判	山本 武志
決 勝 審 判	竹田 直彦	三角巾競技審判長	鈴木 恵太
旗 門 審 判 長	奥山 光幸	三角巾競技審判	和田 均
計時計算記録係長	富樫 泰一	計時計算記録係長	富樫 泰一
コ ー ス 係 長	山本 武志		
コ ー ス 係	研修会参加者		
セ ッ タ ー	鈴木 恵太 竹田 直彦		
ペナルティ審判	土井智恵子 阿部 直樹 新井 和夫 森山 直温 大信田雅伸 班目 敦子 上杉 一哲 和田 均	計 時 審 判	田村 一司 竹田 直彦 奥山 光幸 土井智恵子 阿部 直樹 新井 和夫 森山 直温 大信田雅伸 班目 敦子 上杉 一哲
会 場 施 設 係 長	遠藤 秀明	会 場 施 設 係 長	遠藤 秀明

第 29 回スキーパトロール技術競技大会 日程

○大会前日 3 月 24 日(月)

時 間	項 目	場 所	備 考
17:00～18:30	役員集合・役員会	本部宿舎 1F 食堂	
18:30～	夕食	2F 第 1 宴会場	

○第1日目 3月25日(火)

時 間	項 目	場 所	備 考
07:00～	朝食	1F 食堂	
08:00～10:00	受付	さゆり荘 1F ロビー	
10:00～11:00	選手会 監督会議	さゆり荘 1F 食堂	
10:30～12:00	ボートチェック	センターハウス脇通 路	
13:00～13:45	開会式	さゆり会館 2F 多目的ホール	
14:30～18:00	室内競技	さゆり会館 2F 多目的ホール	
18:30～21:00	情報交換会	さゆり会館 2F 多目的ホール	

○第2日目 3月26日(水)

時 間	項 目	場 所	備 考
07:00～	朝食	1階食堂	
09:00～09:40	選手インスペクション	さゆりコース	ビブ着用
09:45～09:55	ジュリーインスペクション	さゆりコース	
10:00～11:00	アキヤボート搬送競技	さゆりコース	
11:30～12:15	チーム総合滑走競技	さゆりコース	
13:30～14:15	大会表彰式・閉会式	さゆり会館 2F 多目的ホール	

【参加チーム】17 チーム（男子 39 名、女子 9 名、合計 48 名）

【所見】

大会申込 19 チーム中、17 チームが参加した。

今大会よりチームの選手を 5 名から 3 名にし、3 名の中から任意の 2 名で、ロープ・三角巾、搬送競技、総合滑降を競い、ロープ・三角巾は個人表彰とし、搬送種目・総合滑降とも 2 名の選手で行うこととした。

また、大会参加料を 25000 円から 10000 円に引き下げる予定だったが、事務手続き上の不備から従来通りとなり、参加チームには迷惑をかけた。

大会初日は、室内競技（三角巾・ロープ）を実施した。研修会参加者が大会の様子を熱心に観戦し大会を盛り上げた。翌日行われた雪上競技は快晴に恵まれ、最高のコース状況のもとアキヤボート搬送競技、チーム滑降競技が行われた（総合成績_資料 02 室内競技成績_資料 03）。

福島県安全対策部はじめ、地元協力者のもと無事大会を終えることができたことを感謝し報告に代えます。

■第 19 回 FIPS 総会

第 19 回 FIPS 総会が、2014 年 3 月 29 日から 4 月 5 日の 8 日間、カナダ・ケロウナ・ビッグ・ホワイト・スキーリゾートで開催され、日本からは片倉善文・富樫泰一が SAJ 代表として参加し、世界 13 カ国・100 名余りが参加して、参加各国のスキーパトロールシステムの現状と課題、雪上安全に関する医学・雪崩・法律・技術等のテーマごとに講演や演習を行った。会議中日に地元のワイナリーを巡るツアーが企画されていたが、参加者少数のため中止となり、代わりにスキー場ツアーを行った。また会議 2 日目と 5 日目に理事会があり、片倉委員長及び富樫（通訳として）が出席し、次期会長選挙、次期総会のテーマ設定及び開催地決定を行った。

会議参加者の年齢構成は 17 歳から 85 歳と幅広く、現役パトロールはもちろん、引退パトロール、カナダ雪崩センター、医師、弁護士と、パトロール業務に関係の深いエキスパートが一堂に会し、それぞれの専門分野の立場から雪上安全について議論を深めることができた。

諸外国のスキーパトロール養成システムと日本とを比較すると、日本ではスキーや搬送技術の専門家はいるが、医療・法律・雪崩・山岳救助・学術研究等の専門家がおらず、日本のスキーパトロールシステムの欠陥が浮き彫りになった。これらの専門家を専門委員あるいはアドバイザー等として安全対策部に取り込み、日本のシステムを諸外国同様に強固で内容のあるものに改革する必要性を強く感じた。また、諸外国のスキーパトロール養成システムを直接比較検討できる本総会は、継続参加の必要性を強く感じた。

以上より、日本のスキーパトロールシステムを諸外国同様に強化するために「医療」「雪崩」「法律」「学術」の専門家（専門委員あるいはアドバイザー等）を増員し、本会議に継続参加するのみならず、各領域で研究発表できるよう予算措置を希望いたします。